



# 学校だより 穂波平

令和4年度 第3号  
富士宮市立富士宮第四中学校  
静岡県富士宮市穂波町13-1  
TEL26-2944/FAX22-1498

校訓  
考える

学校教育目標 「主体的に行動する生徒」  
●伝え合い学び合う授業 ●認め合い高め合う仲間 ●磨き合い鍛え合う心と体

## 「負ける練習」～相田みつを『受身』から～

校長 菊地 範士

5月17日から始まった修学旅行、自然教室、穂波平セミナーでは、素敵な思い出がたくさんできました。それぞれの行事が成功したのは実行委員、学級委員、班長などのリーダーとそれを支える仲間のおかげがあったからです。学校教育目標でもある「主体的に行動する生徒」に一步近づきました。四中はこのように学年行事や学校行事、生徒会活動などを通してみなさんが大きく成長していくことを目標としています。これからも、失敗を恐れずに全力で取り組んでほしいと思います。

さて、2、3年生には昨年12月の全校集会で「努力と結果」についてお話ししました。覚えているでしょうか。「努力して結果が出ると自信になる。努力せず結果が出ると奢(おご)りになる。努力せず結果も出ないと後悔が残る。努力して結果が出なくても経験が残る。」大切なことは「努力した上で、何かしら出た結果」を次につなげることというお話しでした。

今日は「努力と結果」に続いて「負ける練習」についてお話ししたいと思います。書の詩人、いのちの詩人と呼ばれる「相田みつを」さんの『受身』という詩があります。この詩は、君たちのような若者に向けられた相田みつをさんからのメッセージとも言えます。以下に紹介します。

### 受身 ～負ける練習～ 相田みつを

柔道の基本は受身 受身とは投げ飛ばされる練習 人の前でころぶ練習 人の前で負ける練習です。つまり、人の前で失敗をしたり、恥をさらす練習です。

自分のカッコの悪さを 多くの人の前で、ぶざまにさらけ出す練習 それが受身です。

柔道の基本では カッコよく勝つことを教えない いさぎよく負けることを教える

長い人生には カッコよく勝つことよりも ぶざまに負けることのほうが はるかに多いからです。

だから柔道では 初めに負け方を教える しかも、本腰を入れて 負けることを教える

その代わり ころんでもすぐ起き上がる 負けてもすぐ立ち直る

それが受身の極意 極意が身につけば達人だ

若者よ 失敗を気にするな 負けるときにはさらりと負けるがいい

早くから勝つことを覚えるな 負けることをうんと学べ 恥をさらすことにうまくなれ

そして下積みや下働きの苦しみをたっぷり体験することだ

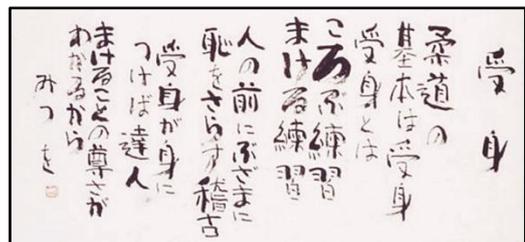
体験したものは身につく 身についたもの それはほんものだ

若者よ 頭と体のやわらかいうちに 受身をうんと習っておけ

受身さえ身につけておけば 何回失敗しても すぐに立ち直ることができるから……

そして 負け方や受身の ほんとうに身についた人間が 世の中の悲しみや苦しみに耐えて ひと(他人)の胸の痛みを 心の底から理解できる やさしく暖かい人間になれるんです。

学校は失敗するところです。失敗を恐れることはありません。失敗の分だけ大きくなれるのです。今は、たくさん失敗して、自分を大きく成長させてください。そして、これから目の前に何度も立ちちはだかる壁を一つ一つ乗り越えてほしいと思います。



## 各学年行事を終えて～担当教員から～

### 【修学旅行 「挑～五感で育め『考動』（考え動く）の葉～」】

修学旅行は、日を追うごとに「集団」としての単位が小さくなっていきますが、それに対して、一人一人の役割と責任はだんだんと大きくなっていき、それぞれが「考え」「動く」ことが求められます。一日目の夜に行われた「キャプテン会議」では、礼儀を尽くすことやルールを守ることに對する反省点が挙げられました。これを受け、二日目、三日目には、『しおり』にメモする姿、周囲に気を配り、仲間に声をかける姿など、たくさんの素敵な場面が見られました。

昨年度の自然教室で「集団」という見えない根を張り、その根がぐんぐんと水を吸い上げ、今回の修学旅行で『考動』の葉を茂らせることができました。一枚の大きな葉を茂らせた生徒もいれば、小さくとも二枚、三枚と葉を茂らせた生徒もいます。その『考動』の葉で、これからの第四中学校を引っ張っていく姿を期待しています。（福嶋 亮）



### 【自然教室 「集まれ191のつぼみ 助け合い分かち合う心をもって」】

慣れない環境でも普段通りに生活すること、周りのことを考えて行動することを目標に3日間を過ごしました。登山では、急勾配な坂を上り、苦しい場面もありましたが、学級関係なく学年全体で「頑張れ!」「あと少し!」などと声をかけ合う姿が印象的でした。多くの活動を通して、班やクラス、学年の仲間のことを考えて活動に取り組む姿や困っている仲間に声を掛ける姿など感心する場面も多くありました。

12の資質・能力のうち、「①他者の考え方を理解する力」「③粘り強く取り組む力」「⑧見通しを立て実践する力」が身に付いたと思います。191のつぼみが、大きな花となれるよう、3日間で身に付けた力を今後の学校生活で継続していき、学年全体の課題を全員で解決できる集団に成長することを期待しています。（松永 真帆）



### 【穂波平セミナー 「仲間と共に学び合う穂波平セミナー～笑顔満開で～」】

穂波平セミナーは、よりよい集団生活のための土台づくりを目的の柱として取り組みました。その目的の達成のために活動する生徒の姿が多く見られました。講話では、内容に興味を持って食い入るように話を聞いていました。レクリエーションでは、仲間の失敗に対しても「ドンマイ!」「頑張れ!」と励ましの声をかけるなど、協力してバトンをゴールまで繋ぐことができました。穂波平セミナーをとおして、仲間の良さを発見したり、集団のために自分が何をすべきか考えた行動をしたりするなど、1年生の成長を感じることができました。この経験を生かし、一人一人が仲間と協力して、「笑顔満開」の学年となることを期待しています。（望月 颯太）

